

令和5年度 北海道大学2次試験前期日程(数学問題)120分
理系(理, 医(医・保健(理学・放射線・検査)), 歯, 獣医, 水産)

問題 1 2 3 4 5

1 複素数平面上における図形 $C_1, C_2, \dots, C_n, \dots$ は次の条件 (A) と (B) をみたすとする. ただし, i は虚数単位とする.

(A) C_1 は原点 O を中心とする半径 2 の円である.

(B) 自然数 n に対して, z が C_n 上を動くとき $2w = z + 1 + i$ で定まる w の描く図形が C_{n+1} である.

- (1) すべての自然数 n に対して, C_n は円であることを示し, その中心を表す複素数 α_n と半径 r_n を求めよ.
- (2) C_n 上の点と O との距離の最小値を d_n とする. このとき, d_n を求めよ. また, $\lim_{n \rightarrow \infty} d_n$ を求めよ.

2 O を原点とする座標空間において, 3点 $A(4, 2, 1), B(1, -4, 1), C(2, 2, -1)$ を通る平面を α とおく. また, 球面 S は半径が 9 で, S と α の交わりは A を中心とし B を通る円であるとする. ただし, S の中心 P の z 座標は正とする.

- (1) 線分 AP の長さを求めよ.
- (2) P の座標を求めよ.
- (3) S と直線 OC は 2 点で交わる. その 2 点間の距離を求めよ.

3 以下の問いに答えよ. ただし, e は自然対数の底を表す.

- (1) k を実数の定数とし, $f(x) = xe^{-x}$ とおく. 方程式 $f(x) = k$ の異なる実数解の個数を求めよ. ただし, $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = 0$ を用いてもよい.
- (2) $xye^{-(x+y)} = c$ をみたす正の実数 x, y の組がただ 1 つ存在するときの実数 c の値を求めよ.
- (3) $xye^{-(x+y)} = \frac{3}{e^4}$ をみたす正の実数 x, y を考えるとき, y のとりうる値の最大値とそのときの x の値を求めよ.

- 4 n を 2 以上の自然数とする. 1 個のさいころを n 回投げて出た目の数を順に a_1, a_2, \dots, a_n とし,

$$K_n = |1 - a_1| + |a_1 - a_2| + \dots + |a_{n-1} - a_n| + |a_n - 6|$$

とおく. また, K_n のとりうる値の最小値を q_n とする.

- (1) $K_3 = 5$ となる確率を求めよ.
 - (2) q_n を求めよ. また, $K_n = q_n$ となるための a_1, a_2, \dots, a_n に関する必要十分条件を求めよ.
 - (3) n を 4 以上の自然数とする. $L_n = K_n + |a_4 - 4|$ とおき, L_n のとりうる値の最小値を r_n とする. $L_n = r_n$ となる確率 p_n を求めよ.
- 5 a, b を $a^2 + b^2 < 1$ をみたす正の実数とする. また, 座標平面上で原点を中心とする半径 1 の円を C とし, C の内部にある 2 点 $A(a, 0), B(0, b)$ を考える. $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ に対して C 上の点 $P(\cos \theta, \sin \theta)$ を考え, P における C の接線に関して B と対称な点を D とおく.

- (1) $f(\theta) = ab \cos 2\theta + a \sin \theta - b \cos \theta$ とおく. 方程式 $f(\theta) = 0$ の解が $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ の範囲に少なくとも 1 つ存在することを示せ.
- (2) D の座標を b, θ を用いて表せ.
- (3) θ が $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ の範囲を動くとき, 3 点 A, P, D が同一直線上にあるような θ は少なくとも 1 つ存在することを示せ. また, このような θ はただ 1 つであることを示せ.

解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \quad 2w = z + 1 + i \text{ より } w - 1 - i = \frac{1}{2}(z - 1 - i)$$

C_n の点 z_n は上の変換によって, C_{n+1} の点 z_{n+1} は次式で導かれる.

$$z_{n+1} - 1 - i = \frac{1}{2}(z_n - 1 - i)$$

$$\text{したがって } z_n - 1 - i = \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} (z_1 - 1 - i)$$

$$z_n - (1 - 2^{1-n})(1 + i) = 2^{1-n}z_1$$

$$|z_1| = 2 \text{ であるから } |z_n - (1 - 2^{1-n})(1 + i)| = 2^{2-n}$$

$$\text{よって } \alpha_n = (1 - 2^{1-n})(1 + i), \quad r_n = 2^{2-n}$$

$$(2) \quad |\alpha_n| = (1 - 2^{1-n})|1 + i| = (1 - 2^{1-n})\sqrt{2}, \quad r_n = 2^{2-n} \text{ より}$$

$$\begin{aligned} d_n &= ||\alpha_n| - r_n| = |(1 - 2^{1-n})\sqrt{2} - 2^{2-n}| \\ &= |\sqrt{2} - (2 + \sqrt{2})2^{1-n}| \\ &= \begin{cases} (2 + \sqrt{2})2^{1-n} - \sqrt{2} & (n = 1, 2) \\ \sqrt{2} - (2 + \sqrt{2})2^{1-n} & (n \geq 3) \end{cases} \end{aligned}$$

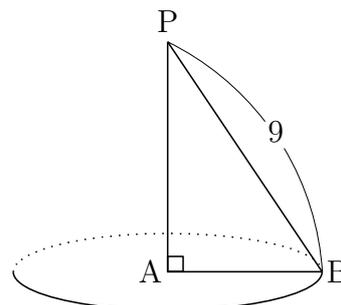
$$\text{よって } \lim_{n \rightarrow \infty} d_n = \sqrt{2} \quad \blacksquare$$

- 2 (1) $A(4, 2, 1)$, $B(1, -4, 1)$ より

$$\begin{aligned} AB^2 &= (1-4)^2 + (-4-2)^2 + (1-1)^2 \\ &= 45 \end{aligned}$$

したがって

$$AP = \sqrt{PB^2 - AB^2} = \sqrt{81 - 45} = 6$$



- (2) $A(4, 2, 1)$, $B(1, -4, 1)$, $C(2, 2, -1)$ より

$$\vec{AB} = (-3, -6, 0), \quad \vec{AC} = (-2, 0, -2)$$

\vec{AB} , \vec{AC} の両方に垂直な単位ベクトルの 1 つを

$$\vec{n} = \left(\frac{2}{3}, -\frac{1}{3}, -\frac{2}{3} \right)$$

とすると, AP が平面 α に垂直で, $AP = 6$ であるとき

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= \vec{OA} \pm 6\vec{n} = (4, 2, 1) \pm 6 \left(\frac{2}{3}, -\frac{1}{3}, -\frac{2}{3} \right) \\ &= (4 \pm 4, 2 \mp 2, 1 \mp 4) \end{aligned}$$

P の z 座標が正であるから $\mathbf{P(0, 4, 5)}$

- (3) 点 P から直線 OC に垂線 PH を引くと

$$\vec{OH} = \frac{(\vec{OP} \cdot \vec{OC})}{|\vec{OC}|^2} \vec{OC} = \frac{3}{9} (2, 2, -1) = \left(\frac{2}{3}, \frac{2}{3}, -\frac{1}{3} \right)$$

$$\vec{HP} = \vec{OP} - \vec{OH} = (0, 4, 5) - \left(\frac{2}{3}, \frac{2}{3}, -\frac{1}{3} \right) = \frac{2}{3} (-1, 5, 8)$$

$$|\vec{HP}| = \frac{2}{3} \sqrt{(-1)^2 + 5^2 + 8^2} = 2\sqrt{10}$$

よって, 求める 2 点間の距離は $2\sqrt{9^2 - |\vec{HP}|^2} = 2\sqrt{41}$ ■

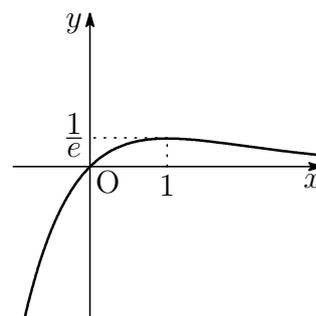
- 3 (1) $f(x) = xe^{-x}$ より $f'(x) = (1-x)e^{-x}$

x	...	1	...
$f'(x)$	+	0	-
$f(x)$	↗	極大 $\frac{1}{e}$	↘

$$\lim_{x \rightarrow -\infty} f(x) = -\infty, \quad \lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = 0$$

$f(x) = k$ の異なる実数解の個数は、曲線 $y = f(x)$ のグラフと直線 $y = k$ の共有点の個数である。

$$\text{よって} \quad \begin{cases} k \leq 0, k = \frac{1}{e} \text{ のとき} & 1 \text{ 個} \\ 0 < k < \frac{1}{e} \text{ のとき} & 2 \text{ 個} \\ k > \frac{1}{e} \text{ のとき} & 0 \text{ 個} \end{cases}$$



- (2) (*) $xye^{-(x+y)} = c$ をみたす正の実数 x, y の組が $(x, y) = (a, b)$ とすると $(a \neq b)$, $(x, y) = (b, a)$ も (*) を満たすので、条件に反する。したがって、(*) をみたす x, y がただ1つであるとき、 $x = y$ であるから

$$x^2 e^{-2x} = f(x)^2 = c \quad (c > 0)$$

このとき、 $x > 0$ であるから、 $f(x) > 0$ より $f(x) = \sqrt{c}$

$$(1) \text{ の結果から } \sqrt{c} = \frac{1}{e} \quad \text{よって} \quad c = \frac{1}{e^2}$$

- (3) $xye^{-(x+y)} = \frac{3}{e^4}$ より

$$f(x)f(y) = f(1)f(3) \quad \text{ゆえに} \quad f(y) = \frac{f(1)f(3)}{f(x)}$$

(1) で求めたグラフから y が最大となるとき、 $f(y)$ は最小値をとる。上式から、 $f(y)$ が最小となるとき、 $f(x)$ は最大値をとるから

$$x = 1 \quad \text{ゆえに} \quad f(y) = f(3) \quad \text{よって} \quad y = 3$$



4 $K_n = |1 - a_1| + |a_1 - a_2| + \cdots + |a_{n-1} - a_n| + |a_n - 6|$ より

$$\begin{aligned} K_n &= |a_1 - 1| + |a_2 - a_1| + \cdots + |a_n - a_{n-1}| + |6 - a_n| \\ &\geq |(a_1 - 1) + (a_2 - a_1) + \cdots + (a_n - a_{n-1}) + (6 - a_n)| = 5 \end{aligned} \quad (*)$$

したがって $q_n = 5 \cdots \textcircled{1}$

$a_1 - 1 \geq 0, 6 - a_n \geq 0$ より, (*)において等号が成立するとき,

$$a_2 - a_1 \geq 0, \cdots, a_n - a_{n-1} \geq 0$$

すなわち $1 \leq a_1 \leq a_2 \leq \cdots \leq a_{n-1} \leq a_n \leq 6$ (A)

$a_1 - 1, a_2 - a_1, \cdots, a_n - a_{n-1}, 6 - a_n$ の $n + 1$ 個から 5 個取る重複組合せは

$${}_{n+1}H_5 = (n+1)_{+5-1}C_5 = {}_{n+5}C_5$$

$K_n = 5$ となる確率 $P(K_n = 5)$ は

$$P(K_n = 5) = \frac{{}_6H_n}{6^n} = \frac{{}_{6+n-1}H_n}{6^n} = \frac{{}_{n+5}C_5}{6^n} \quad (**)$$

(1) (**) に $n = 3$ を代入して

$$P(K_3 = 5) = \frac{{}_8C_5}{6^3} = \frac{7}{27}$$

補足 $a_1 - 1, a_2 - a_1, a_3 - a_2, 6 - a_3$ の 4 個から 5 個取る重複組合せは¹

$${}_4H_5 = {}_{4+5-1}C_5 = {}_8C_5 = 56$$

例えば, $a_1 - 1$ を 2 個, $a_3 - a_2$ を 3 個取るとき

$$a_1 - 1 = 2, \quad a_2 - a_1 = 0, \quad a_3 - a_2 = 3, \quad 6 - a_3 = 0$$

このとき $a_1 = a_2 = 3, a_3 = 6$

6			
5			
4			
3			
2			
1			
	a_1	a_2	a_3

¹http://kumamoto.s12.xrea.com/N/Kdai/Kdai_ri.2022.pdf 2 は関連問題.

(2) ①より $q_n = 5$

(A)より, 求める必要十分条件は

$$1 \leq a_1 \leq a_2 \leq \cdots \leq a_{n-1} \leq a_n \leq 6$$

(3) $a_4 = 4$ および (A) を満たす確率を求めればよい.

$a_1 - 1, a_2 - a_1, a_3 - a_2, 4 - a_3$ の4個から3個とる重複組合せは

$${}_4H_3 = {}_6C_3$$

$n > 4$ のとき, $a_5 - 4, a_6 - a_5, \cdots, a_n - a_{n-1}, 6 - a_n$ の $n - 3$ 個から2個とる重複組合せは

$${}_{n-3}H_2 = {}_{n-2}C_2$$

このとき

$$p_n = \frac{{}_6C_3 \cdot {}_{n-2}C_2}{6^n}$$

上式は, $n = 4$ のときも成立するから

$$p_n = \frac{10(n-2)(n-3)}{6^n}$$



5 (1) a, b は, $a^2 + b^2 < 1$ をみたす正の実数であるから

$$0 < a < 1, \quad 0 < b < 1$$

$$\text{これから } f(0) = b(a-1) < 0, \quad f\left(\frac{\pi}{2}\right) = a(1-b) > 0$$

したがって, 中間値の定理により, $f(\theta) = 0$ の解が $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ の範囲に少なくとも1つ存在する.

(2) $C: x^2 + y^2 = 1$ 上の点 $P(\cos \theta, \sin \theta)$ における接線の方程式は

$$x \cos \theta + y \sin \theta = 1 \quad \dots \textcircled{1}$$

点 $B(0, b)$ を通り, 直線 $\textcircled{1}$ に垂直な直線の方程式は

$$x \sin \theta - y \cos \theta = -b \cos \theta \quad \dots \textcircled{2}$$

2直線 $\textcircled{1}, \textcircled{2}$ の交点を M とすると, その座標は

$$M(-b \sin \theta \cos \theta + \cos \theta, b \cos^2 \theta + \sin \theta)$$

(3) M は2点 B, D の中点であるから

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OD} &= 2\overrightarrow{OM} - \overrightarrow{OB} \\ &= 2(-b \sin \theta \cos \theta + \cos \theta, b \cos^2 \theta + \sin \theta) - (0, b) \\ &= (-b \sin 2\theta + 2 \cos \theta, b \cos 2\theta + 2 \sin \theta) \end{aligned}$$

よって $D(-b \sin 2\theta + 2 \cos \theta, b \cos 2\theta + 2 \sin \theta)$

$\overrightarrow{AP} = (\cos \theta - a, \sin \theta) // \overrightarrow{AD} = (-b \sin 2\theta + 2 \cos \theta - a, b \cos 2\theta + 2 \sin \theta)$
より

$$-(\cos \theta - a)(b \cos 2\theta + 2 \sin \theta) + \sin \theta(-b \sin 2\theta + 2 \cos \theta - a) = 0$$

整理すると $ab \cos 2\theta + a \sin \theta - b(\cos 2\theta \cos \theta + \sin 2\theta \sin \theta) = 0$

また, $\cos 2\theta \cos \theta + \sin 2\theta \sin \theta = \cos \theta$ であるから

$$ab \cos 2\theta + a \sin \theta - b \cos \theta = 0 \quad \text{すなわち } f(\theta) = 0$$

(1) の結果から, 上式をみたす θ ($0 < \theta < \frac{\pi}{2}$) が少なくとも1つ存在する.

$f(\theta)$ を微分すると

$$\begin{aligned} f'(\theta) &= -2ab \sin 2\theta + a \cos \theta + b \sin \theta \\ &= -4ab \sin \theta \cos \theta + a \cos \theta + b \sin \theta \end{aligned}$$

$x = a \cos \theta$, $y = b \sin \theta$ とおくと $(a > 0, b > 0, a^2 + b^2 < 1, 0 < \theta < \frac{\pi}{2})$

$$xy = ab \sin \theta \cos \theta = \frac{1}{2} ab \sin 2\theta = \frac{1}{4} \{a^2 + b^2 - (a - b)^2\} \sin 2\theta < \frac{1}{4}$$

したがって

$$\begin{aligned} f'(\theta) &= -4xy + x + y = -4xy + (\sqrt{x} - \sqrt{y})^2 + 2\sqrt{xy} \\ &= 2\sqrt{xy}(1 - 2\sqrt{xy}) + (\sqrt{x} - \sqrt{y})^2 > 0 \end{aligned}$$

$f(\theta)$ は $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ において、単調増加であるから、

$$f(\theta) = 0$$

をみたす θ はただ1つである. ■